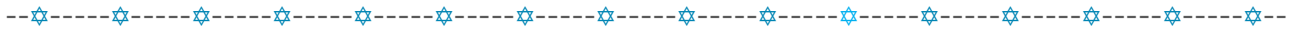


#396 『大バビロンの崩壊をめぐって二分される人類—悲しむ人々と喜ぶ人々』

～黙示録 18 章後半～

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



皆様、こんばんは。本日は足元悪い中、このようにお集まり頂きましてありがとうございます。
先日、YouTube でマーケティングの動画を見ていました。講師が塾生たちに聞くんですね。
課題です。“痴漢が多発する地帯に看板を立てよ”。その看板の文言をどう書いたらいいか、を考えさせるんです。“痴漢注意” “痴漢は犯罪です” “監視カメラ作動中” など色々出のですが、講師の模範解答はこうでした。“痴漢逮捕実績 全国一の町”。これが効くと。
やらかそうとしている犯人に、捕まった時のイメージを持たせることができるというんですね。
“この町では、闇で行ったことは必ず明るみに出されて、罰を免れることはできないぞ。しでかした悪には必ず罰が来るんだぞ” というのを、イメージとして思い描かせるような文章が効くのではないか、という話でした。

黙示録には何が書いてあるか。「悪は必ず裁かれる。善は必ず報われる。そして、神は全てのことをご覧になっている。この世界で横行していた全ての悪は、最終的にイエス・キリストの地上再臨によって必ず裁きを受ける。」これが艱難時代のクライマックスなんですね。
このクライマックスについて書いてあるのは黙示録 19 章ですが、今日 18 章の最後までやる。
ということは、次回いよいよ 艱難時代のクライマックスに入っていくということです。

さて、18 章にどんなことが書いてあるのか、最初にざっくり申し上げます。
聖書預言によると、ある時 反キリストと呼ばれる超人的な政治家が現れます。
彼はユダヤ人ではありません。ローマ人の子孫です。ユダヤ人ではないんです。
反キリストがイスラエルと 7 年間の安全保障条約を結んでから特別な時代が始まる。
この 7 年間の艱難時代と言います。

反キリストがイスラエルと安全保障条約を結ぶために、絶対に必要なことが 1 つあります。
イスラエルという国が存在していることです。だけど、イスラエルは AD70 年に世界中に散らされて、1900 年間 国が無かったんですよ。だから、これはずっと実現しない預言だったのです。
しかし、1948 年 5 月 14 日にイスラエル国家が再建された。その瞬間から、これがいつでも起こり得る状態が整っているということです。

7 年間の艱難時代は、前半と後半に分けることができます。
前半、反キリストはイスラエルを守りますが、前半で世界人口の半分以上が死滅します。
しかし、ちょうど中間点に入った時、反キリストは本性を現してイスラエルを滅ぼしにかかります。
そして、前半よりもはるかに激しい苦難の時代が始まろうとするのですが、独裁者反キリストは、全世界を統治する時に首都を持つんですね。

特に後半 3 年半、世界全体の政治の中心・経済の中心・宗教の中心、全世界のハブとなる都市。
全世界はこの都市を中心に回るといふ中心点。それは、ワシントンでも北京でもモスクワでもない。
バビロンです。バビロンは現イラクにあります。想像できますか？ 世界の中心がイラクに来るって。

今はまだ想像しにくいかもしれませんが、聖書が預言したことは必ず実現して来た。
今 バビロン/イラクが世界の中心でないということは、ある意味ありがたいですよ。
もしそうだったら、なんで私 この地上にいてんねん、という話ですよ。

反キリスト帝国の首都バビロンという凄まじい町が、7年間の最後の最後、地上再臨の直前に滅びます。それは、じわじわ衰弱していく滅び方ではなくて一瞬なんです。一日の内に、たちまちの内にバビロンは崩壊する。その時人類は、**悲しむ人々と喜ぶ人々**の真っ二つに割れるんですね。

悲しむ人々には3種類あります。政治家・商人・海運業者。彼らはバビロンによってぼろ儲けしていた人々です。**喜ぶ人々**は天にいるクリスチャンたち。艱難時代に殉教した人たち。

そして、これが終わると地上再臨のキリストがやって来て、この世界の統治を始めるのです。地上再臨については次回です。今日は、**大バビロンの崩壊をめぐって悲しむ人々と喜ぶ人々**。その悲しみの内容を調べることによって、バビロンの中でどんなことが行われていたのかをあぶり出して見る事ができるんです。

黙示録 18 章

9 彼女と淫らなことを行い、ぜいたくをした地の王たちは、彼女が焼かれる煙を見ると、彼女のことで泣いて胸を打ちたたく。

彼女とは特定の女性ではなく、反キリスト帝国の首都 大バビロンのことです。新約聖書の原語ギリシア語と旧約聖書の原語ヘブライ語には、名詞に男性名詞・中性名詞・女性名詞の3つの性があります。この2つの言語体系の中で、町は女性名詞です。なので、大バビロンを代名詞で言う時、**彼女**と呼ぶのです。

彼女と淫らなことを行いとは、1人の淫婦・遊女など、特定の女性と何かをしたというのではない。**彼女/大バビロンと淫らなことをした**のは、大バビロンは反キリストの王座がある首都なので、反キリスト支配体制に積極的に協力することによって、たくさんの分け前をもらっていた政治家たちです。

地の王たちと複数形になっています。後でまた言いますが、この時世界は7つのブロックに割れて、7人の王がいます。この王たちの上に反キリストがいるのですが、この7人の王のことではありません。

7人の王の下にいる その他諸々の政治家たちのことです。上から下まで腐敗している。反キリスト帝国の心臓部バビロンと関係することによって、たくさんの分け前をもらっていた政治的実力者たちと言えます。**彼女が焼かれる煙を見ると、彼女のことで泣いて胸を打ちたたく**。悲しんだんですね。

10 彼らは遠く離れて立ち、彼女の苦しみに恐れをなして、「わざわざ、わざわざ、大きな都、力強い都バビロンよ。あなたのさばきは一瞬にしてなされた」と言う。

悲しむけど、**彼らは遠く離れて立ち**。愛する人が酷い目に遭ったら駆け寄って行きませんか？

11年前、東日本大震災がありましたね。大阪でもずいぶん揺れました。

が、テレビの映像を見てびっくりしました。地震と津波と原発事故と。あの津波の映像は恐ろしくて。同胞が津波で押し流されて行った。町が壊滅した。居ても立っても居られない気持ちになった日本人はたくさんいたんです。

私たちも、道路が開通すると、何も専門的技術は持ってないけど、とにかく何かしたい！ せずにはおれない！ という気持ちになって、不足していると言われた物資、紙おむつ・ミネラルウォーター・乾電池のセット・お米などを積めるだけ積めて、数人の者たちと1台の車で出発しようと思いました。

しかし当時、東北地方のガソリンスタンドではガソリンを売ってくれなかったんです。いくらタンクを満タンにしても、向こうに行ってから作業できないということで、予備タンクにガソリンを入れて積んで行こうとしたのですが、犯罪に使われたらいけないので、それは許可されないんですね。

運転してくれる仲間がガソリンスタンドに行って「予備タンクに入れてください。」オーナーは「いや、出来ないんですよ」と断りました。そのオーナーの奥さんが東北地方の出身者だったんです。「あなた、何とかしてあげてよ。私たちの両親が今苦しんでる。そこに救援物資持って行ってくれるんだから、何とかしてあげてよ！」何とかしてくれました。予備タンクを満タンにして出発したんです。

自分の大事な人たちが住んでいる所や町が壊滅状態になって行ったら、**遠く離れて立ち**ではなく、何かできることはないか、ボランティア活動で貢献できることはないか、と駆け寄って行くのが普通じゃないですか。

ところが、**地の王たち**と言われる政治家たちは、今まで散々バビロンによって甘い汁を吸っているのに、**彼女のことで泣いて胸を打ちたたく。彼らは遠く離れて立つ。**泣いてるんです。「なんということだ！」と嘆いている。なぜ駆け寄らなかったのか？

遠く離れて立ち、彼女の苦しみに恐れをなして。バビロンに下った裁きを、単純な自然災害とは見ていなかったんですね。どう見ていたのか？

「わざわざいだ、わざわざいだ、大きな都、力強い都バビロンよ。あなたのさばきは一瞬にしてなされた。」これは単純な天変地異じゃない。裁きが下ったのだと悟っていたのです。自然現象で倒れたんじゃない。天からの裁きが振り降ろされて、一瞬にして滅んだのを見た。

その裁きの内容は、**8 これらのことのため、一日のうちに、様々な災害、死病と悲しみと飢えが彼女を襲います。**

一日のうちにバビロンに降りかかった**死病と悲しみと飢え**が、**第1の鉢から第5の鉢の裁き**です。これは**黙示録16章**で解説しました。海が壊滅し、川が壊滅し、そこで取れるものが何もなくなり、腫れ物ができ、太陽の炎熱が降り、暗闇に襲われて…。

その恐るべき裁きがバビロンの上に集中豪雨のように集まったんですね。それを見た時、その場所に駆け寄って行ったら、自分たちの上にもそれが降りかかってくるのではないかと心配し、遠く離れて安全地帯から眺めているんです。

しかし、遠く離れているのに、一日のうちに様々な災害が起こったのを、どうして知ることができたのでしょうか？ おそらく SNS・衛星中継・インターネットを通して、遠くにいながらリアルタイムで見る。でも、見て分かった時に、駆けつけようという気持ちにはなれない。あの場所は恐ろしくて、足を踏み入れることはできない。それで、遠く離れて眺めていた。これが第 1 番目の悲しみのグループです。

11 また、地の商人たちは彼女のことで泣き悲しむ。 彼らの商品を買う者が、もはやだれもいないからである。

この商人たちは、反キリストによって独占販売権をもらっていたようですね。というのは、艱難時代の後半 3 年半は自由な商売ができないんです。この時代は、獣の数字を持っている者以外だれも、買うことも売ることもできません。経済が反キリストの許可制になっていて、それを持っていない者は経済活動を行うことができない。バビロンという反キリストの中心と直接商いができるこの商人たちは、おそらく政商ですね。艱難時代のオリガルヒみたいなもんですよ。巨万の富を持ったんじゃないですか？ この時に。

地の商人たちは、彼らの商品を買う者がだれもいないので泣いた。今まで反キリストの都でぼろ儲けしてたのに、都そのものが壊滅してしまったので、もはや自分たちの商品を受け取ってくれる者がおらん。もう儲けの可能性がなくなった。それで悲しんでいるんですね。

ところで、ぼろ儲けしていたこの地の商人たちは何を商品にしていたのか。29 品目の商品リストが 12 節と 13 節に出て来ます。これを 8 つのカテゴリーに分けたいと思います。

12 商品とは、金、銀、宝石、真珠、亜麻布、紫布、絹、緋色の布、あらゆる香木、あらゆる象牙細工、高価な木材や青銅や鉄や大理石で造ったあらゆる器具、 13 シナモン、香料、香、香油、乳香、ぶどう酒、オリーブ油、小麦粉、小麦、家畜、羊、馬、馬車、奴隷、それに人のいのちである。

①金、銀、宝石：貴金属。アクセサリー・宝石類。一番重宝されました。

②亜麻布、紫布、絹、緋色の布：ファッション。

プーチン大統領がスタジアムに支持者を集めて、「我々はウクライナを非ナチ化するために攻め込んだんだ！」と言った時、ダウンジャケット着てましたね。あれはイタリアのブランドで、160 万円するんですよ。16 万でも、そんなん買われへんわ。ダウンジャケットくらいで。私は死ぬまでウルトラライトダウンちゃうかと思ってるんですけど。160 万！ブランドってそんなもんですよ。今 西側ブランドのメーカーは、ロシアと取引しないということで、全ての店のシャッターが閉まっているのに、プーチンだけ いくらでも取り寄せることができる。こういうファッションですね。

③あらゆる香木、あらゆる象牙細工、高価な木材や青銅や鉄や大理石で造ったあらゆる器具：美術品。美術品というのは値段あって無いようなもんですよ。物理的にいうと、キャンバスに絵の具塗ってあるだけなのに、オークションで 10 億円・20 億円・100 億円とか。私にしてみたら、赤ちゃんが手をベタベタやって付けただけにしか見えないのに何十億円とか。でも、贅沢になっていくと投資の商品になる。世界中の富がバビロンに集まって来る。

金の行き場がない。美術品です。オークションでしょう。

この世界がいつまでも続くと思っていたら、より値上がりするような物に投資するんですね。

④シナモン、香料、香、香油、乳香：コスメティック。美容。化粧品。

バビロンの女性たちは美容と若返りと化粧など、贅沢な見栄えを良くするものに、ふんだんにお金を使ったであろうことがなんとなく予測できます。

⑤ぶどう酒：嗜好品。無くても生きていける。

⑥オリーブ油、小麦粉、小麦、家畜、羊：食料品。

⑦馬、馬車：乗り物。

⑧奴隷、それに人のいのちである。

最初が金です。銀よりも価値がある。この 29 品目のリストは、価値が高いものから低いものにリストアップされていると考えることもできるんです。

そう考えると、最後のリストは人のいのち。すなわちバビロンの価値観は、人間のいのちが一番安い。

人が人として重んじられない。反キリストに逆らうような人間は生きる価値が無い。

反キリストと繋がりを持って初めて、意味を持たせてもらえるような世界。

奴隷、それに人のいのちである。それにという言葉はギリシア語でカイ。英語だと and。

だから、奴隷と人のいのち。

奴隷はギリシア語でソーマトーン。複数形。紙の聖書を持っている方は欄外注を見たら分かりますが“肉体・人体”。人のいのちは“魂”という言葉が使われています。

奴隷、それに人のいのち。人体と人のいのち（魂）が商品として売られている世界。

人間の体といのちが売り物として売買されている都。

しかも、その値段は非常に安い。つまり、売られる側の人間が非常に多くいる。

贅沢の極みを味わっている人たちがいる一方で、彼らから人間扱いされずに、商品として人身売買の対象となっている人たちがいた。

ところで皆さんは、他人の臓器をもらったことがありますか？ 臓器移植。

もしかしたら、この中におられるかもしれません。例えば輸血。医学の定義では、血液は臓器の一種なんです。胃や腸や肺のように、血液も流れる臓器と定義されています。

日本では基本、売血はできません。昔は出来ましたが、今は血を売ってお金をもらうことは禁じられています。手術や治療用の血液はボランティアの献血で確保していますね。

しかし、若い人たちは献血に関心がなくなり、少子化で、今非常に血液が足りない。

そこで、どうしているか。輸入してるんです。お金を払って、外国の人たちの血液を買っています。

どこから？ 中国です。一番多い。中国の人たちの血液を買って使っています。

献血してもすぐに造血細胞が働いて血は復帰して、抜かれたら最後まで足りないままということはないので、献血は一つの崇高な行為と言えます。

ちょっと前に、『透明なゆりかご』という漫画を読みました。
沖田×華（おきた ばっか）という女性漫画家の作品です。
彼女は看護系の高校に通いました。卒業時に准看護師の資格を得ることができます。
高校3年の夏休み、「私、准看になるんです」と近くの産婦人科にアルバイトに行きました。
まだキャップもらってないから、自分だけ頭巾みたいなのをかぶって。

新米看護師さんが貧血を起こして、「困ったなあ。君バイトやけど、ちょっと来て。」手術室に入った。
そしたら、院長先生が「今から墮胎手術するから手伝ってくれ。」そして、軽く言ったそうです。
「君、日本人の三大死亡原因 知ってるか?」「はい、習いました。癌・脳血管障害・心疾患の3つだと思ひます。」「表向きはそうやな。でもな、ほんとの一番は人工中絶。ぶっちぎりで。」
「えっ!」とたじろぐのですが、何事もなかったように、10分くらいで墮胎処置をするんですね。

処置をすると赤ちゃんが出て来る。その赤ちゃんは透明なんですって。
その透明の細胞のような赤ちゃんを、あるカプセルに移し変えるのが彼女の役割です。
そのカプセルを入れた物を箱に納めて行くのですが、毎日午後になると業者が来て「今日、ある?」
「今日墮胎した赤ちゃんがありますか」という意味。「はい、3つあります。」そして業者に渡す。
『引き取り業者は、それを火葬するのでしょうか』と書いてあるけど、本当のところはよく分からない。

アメリカでは、人工中絶で掻き出された赤ちゃん、胎児の遺体を専門に回収する業者があつて、医療研究機関に卸しています。というのは、細胞分裂が非常に生き（いき）が良いんですね。
色んな病気・薬剤・試薬を作る時に役に立つ。研究材料になる。

適当なことを言っているのではありません。読んだ本で、講談社の『素晴らしい人間部品産業』。
その本の中に、実におぞましい事が次から次へと出て来る。
ひと言で言うと、「人間の体ほど 大金に化ける商品は滅多にない」ということを論証しているんです。
読んだ後で吐きそうになりますよ。

人権が叫ばれているこの時代。艱難時代ではない、この恵みの時代においても、私たちが知らないところで、おぞましい人身売買、**人体や人のいのち**が売買されていることがあるんです。

例を1つ挙げましょう。以前も申し上げましたが、中国の臓器移植問題です
中国の臓器移植産業は1兆円産業です。169の移植認定病院があつて、年間6万から10万件的臓器移植手術をしている。それも20年続いている。掛け算したらどうなりますか?
更に、認定されていない病院でも行っているんです。

それだけたくさんの人たちを助けているからいいじゃないか。
でも、ドナーをどうやって集めたんですか?
臓器を提供して欲しい人がいても、提供者がいないと提供できないじゃないですか。

世界一の臓器移植大国アメリカでは、心臓のドナーを見つけるのに平均8か月、肝臓のドナーは2年2か月、腎臓は3年1か月。日本では10年以上待たなければならない。
中国では1週間から4週間。なんでそんなに都合よく 脳死状態の人が出て来るんですか?
実は、生きた人間から臓器を取り出しているからです。

それがウイグル人・チベット人・家の教会に集っている一部のクリスチャンたち。
それを告発している人がいるんですね。
カナダのデービッド・マタス（1943- ）という人権派弁護士です。

臓器を取り出していた医者が良心に苛まれて、「もうこれ以上、こんなことしたくない！」
中国からトルコに亡命。逃げたんです。そして、自分がやって来たことを、洗いざらい全部ゲロっ
ているわけですよ。「私はこの手でやってしまいました！」
その人が去年、デービッド・マタスと一緒に日本に来て講演をやったんです。インターネットで聞く
ことができますよ。

中国の中には人間牧場・臓器プールがある。捕らえられた人たちは無辜（むこ）の民です。
過失が何も無いにもかかわらず捕らえられて、すぐに血液検査や、臓器適合に必要なあらゆる検査
を受けさせられて。

中国共産党に睨まれた億万長者に、郭文喜（かく ぶんき/1970- ）という人がいます。
彼は中国にいたら財産没収されてしまうということで、財産をアメリカに移して亡命し、今アメリ
カにいて、「中国でこんな事が行われてるんだ！」と全部喋りまくった。

その1つは、前にも言ったことがあります、**“4色（金・赤・青・緑）の罠/トラップ”**。
金・マネートラップ。不正なお金を掴まされて共犯者にされてしまう。

赤・ハニートラップ。数年前、中国の領事館で日本の外交官が自殺しましたね。
工作機関の女性と関係を持ってしまった。「ばらされなくなかったら日本の機密渡しなさい。」
それは出来ない。でも、やってしまったということで自殺した。その遺書の中に、一部始終全ての告
白文がありました。

青（ブルースカイ）・ネット。サイバーによって、各国要人のプライベートな知られたくない情報を
盗み出し、それをネタに脅迫する。

緑・医療トラップ。自分の国でドナーをいくら待ってても、自分の命がもうもたない。
その場合、それぞれのジャンルで一番得意な先進技術を持っている国に行って医療サービス・手術
を受ける。これを医療ツーリズムと言います。中国は臓器移植でずば抜けている。
これだけのことが、もう20年以上続いている。
にもかかわらず、なぜ日本のマスコミは取り上げないのか。国会で取り上げないのか。

日本のジャーナリストで、この事を詳しく取材している野村旗守（のむら はたる/1963- ）さんとい
う方がいます。彼によると、日本の政治家たち・財界人たち・官僚たち・マスコミの大物たちは皆、
エエお歳ですよ。そして中国に渡って、これを受けてる。
一度中国に行って手術を受けたら、全てのデータ・情報は中国が握ることになります。
今更「こんな事はけしからん！」と言って、「だったら、あなたも」となったら、これは困る。
ということで、黙らせているのではないか。

デービッド・マタス氏が書いた『中国臓器狩り』。私1万円近くかけて手に入れました。絶版本で。

ほな この間、千数百円で新しく出てまして。もうちょっと待てばよかったと思ったんですが。今それで買えますよ。千数百円もダメという人は、日本人のジャーナリストが書いた『残虐の大地』という本が700円くらいで出てます。結局ね、生きている人たちの臓器を取っている。

しかもそのやり方が…、死刑囚からも取ってたんですが、普通は銃殺の時 左胸を撃つでしょ。右の胸を撃つんです。心臓を取り出すために。だから死ねない。まだ痛みを感じているうちに臓器を取って行く。ナチス以下ですよ、これ。それで1兆円産業。これ許していいですか？

こんな事をやっているのが、今の中国共産党 一党独裁体制。
今のこの時代においてですら、独裁体制が成立する国の中ではやることやってる。
ましてや、全世界が反キリストの管轄下に置かれた時、反キリスト帝国の首都バビロンでどんな事が行われるのか。やりたい放題でしょう。

しかし神は、いつまでもそれをほったらかしにされません。
このバビロンの繁栄にピリオドを打つために、裁きを起こされたんですね。

14 「おまえの心が欲しがらる果物は、おまえから遠ざかり、ぜいたくな物や華やかな物は、すべておまえから消え失せて、もはや決して見出すことはできない。」

これはおそらく、18章1節に出て来たもう一人の御使いの声だと思います
バビロンが滅びたので買う物がなくなった。だから、おまえの心が欲しがらる果物は、おまえから遠ざかった。ここで、バビロンの中の商品を果物になぞらえて語っています。
なぜ、おまえの心が欲しがらる“商品”と言わずに果物なんでしょう？

この果物は単数形です。聖書を見ると、神が人類のために最初に用意した環境はエデンの園で、その中央に素晴らしい果物の木がありました。いのちの木。それを模倣しているのです。
悪魔の力で造ったエデンの園、それがバビロン。
神が造ったエデンの園よりも、悪魔のバビロンのほうがはるかに素晴らしいぞ。

なぜなら、おまえの心が欲しがらる果物とあるように、バビロンの中では、人間のあらゆる欲望が叶えられる物が揃っているから。人間の、暴走する変態的な倒錯した欲望を何もかも叶えてくれる物が全部揃っている。ここは地上のエデンの園だ！
しかし、それは永遠ではない。その嘘がとうとう終わった。

15 これらの物を商って彼女から富を得ていた商人たちは、彼女の苦しみに恐れをなして、遠く離れて立ち、泣き悲しんで言う。

16 「わざわざだ、わざわざだ、大きな都よ。亜麻布、紫布、緋色の布をまとい、金、宝石、真珠で身を飾っていたが、

17 あれほどの富が、一瞬にして荒廃に帰ってしまった。」

バビロンは一瞬で崩壊した。かつて、ソドムとゴモラが天から降って来た火によって一瞬で終わってしまったように、神の裁きによってバビロンは滅んだ。滅んだけど駆けつけない。
恐れをなしているから。自分たちの上にもそれが降りかかることが怖い。

商品を取り戻そうなんてつもりは全然ない。恐ろしい。これが第2番目の**悲しみのグループ**です。

17 また、すべての船長、その場所を航海するすべての者たち、水夫たち、海で働く者たちもみな、遠く離れて立ち、

18 彼女が焼かれる煙を見て、「これほどの大きな都がほかにあつたらうか」と叫んだ。

3番目の**悲しみのグループ**は海運業者です。世界貿易の99%は今でも海。大量に物を運ぶことができるのは船舶です。全ての船長、航海する者たち、水夫たち、海で働く者たち、船主たち。

19 彼らは頭にちりをかぶり、泣き悲しんで叫んだ。

頭にちりをかぶり。これは旧約聖書に頻繁に出て来る表現で、悲しみを表します。

どん底の悲しみ・深い悲しみを表現する時、“頭にちり・灰をかぶる”。

バビロンに自分の人生の全てを乗っけて生きて来た人たちは、バビロンがひっくり返った時 人生が全部ひっくり返った。なんという恐るべきことを見ているのか。

バビロンが一瞬にして滅んだということは、自分たちの財産も一瞬にして滅んだということですよ。

—————以上が、**悲しむ人々3つのグループ**です。

それに対して、**喜ぶ人々**がいるんですね。

20 「天よ、この都のことで喜べ。聖徒たちも使徒たちも預言者たちも喜べ。神があなたがたのために、この都をさばかれたのだから。」

あのね、**悲しむ人々**にもものすごいページ数割いてるのに、**喜ぶ人々**はこの1節だけです。バランス取れへんやんかと。これだけ？みたいな。

喜ぶ人々はどこにいるのか。地上ではないんです。**天よ**、天に引越した人たちです。

ここでは3つのグループが出て来ます。**聖徒たちも使徒たちも預言者たちも**。

聖徒たちはキリストを信じた人たち。**預言者たち**はキリストを宣べ伝えた人たち。

聖徒たち・預言者たちは、艱難時代 後半3年半の間、どんな事をされていたのか。

24 この都（バビロン）の中に、預言者たちや聖徒たちの血、また地上で屠られたすべての人々の血が見出されたからである。

つまり、バビロンで殉教した人たち。バビロンに引っ張って行かれて血が流された人たち。

その中には、臓器を抜き取られた人たちもいたでしょう。

なにしろ、一番価値がなかったのは**人体と人のいのち**。この時やりたい放題やられて、抵抗する手段もなく、ただキリストに望みを掛けて殺されて行った人たち。それが**聖徒たち・預言者たち**です。

彼らの叫びを神は聞いていました。「いつまでもほったらかしにすることはしない。この罪について必ず裁きを下す。」そして、とうとう裁きが下された。「あなたがたは天からそれを見た。だから喜びなさい。ここに神の正義が実現したから。」**神があなたがたのために、この都をさばかれた。**

では、**使徒たち**とは誰でしょう？ イエス・キリストの12弟子。

新約聖書を書くのに用いられた人たちで、艱難時代にはいません。

いない人たちも、バビロンが滅ぼされた時に「喜びなさい」と言われているんですね。なぜでしょう？
バビロンが崩壊した次に起こることは地上再臨だからです。

みんな、これを待ってた。いよいよ待ちわびて来た瞬間がカウントダウンに入る。喜ぼう！

そしてもう一度、バビロンそのものに目を向け直すんですね。

21 また、一人の強い御使いが、大きいひき臼のような石を取り上げ、海に投げ込んで言った。

「大きな都バビロンは、このように荒々しく投げ捨てられ、もはや決して見出されることはない。」

昔 梅田の 空中庭園とかあるスカイタワービル、あそこの地下に、わらび餅を食べさせてくれる店
があって、生まれて初めて石臼を挽きました。石臼いうても直径 30 センチくらいの石ですよ。

穴が開いてて、そこに大豆を入れてグリグリガリガリやると、きな粉になるんです。

私は、きな粉は大豆を粉にした物だと初めて知って、「そうやったんか！」といたく感動したのを覚えて
います。簡単に手で回せるけど、それでも持ち上げるのは大変ですよ。

イスラエルでロバが挽く石臼は直径 1 メートル 50 くらいある。重さ 2-3 トンあるでしょうね。

それを海の中に放り込んだら、海底まで沈んで二度と浮かび上がることはない。

このデモンストレーションと同じように、バビロンは完全に滅ぼし尽くされてしまうのだ。

滅ぼし尽くされた状態を 5 つの表現で語ります。

**22 豎琴を弾く者たち、歌を歌う者たち、笛を吹く者たち、ラッパを鳴らす者たちの奏でる音（ね）
が、おまえのうちで、もはや決して聞かれることはない。**

バビロンから音楽が消える。それは喜びが消えるということです。かつてはどんちゃん騒ぎをやっ
たことでしょう。しかし、バビロンの喜びは全てぬか喜び。喜びがどこにもない町になる。

あらゆる技術を持つ職人たちも、おまえのうちで、もはや決して見出されることはない。

バビロンでは二度と産業が起こらない。かつては色んな頭脳も集まって来たことでしょう。

なにせ世界の首都だから。すごい大学もあったに違いない。だけど、もうそんな町ではない。

あらゆる産業は二度とここでは復興しない。

石臼の音も、おまえのうちで、もはや決して聞かれることはない。

石臼は、粉にするために各家庭に 1 つずつあったそうです。つまり日常生活の音ですよ。

日本なら、まな板に包丁のトントントンという音が響かないという感じ。

そこに住む人がだれもいなくなる。生活の香りがなくなる。

23 ともしびの光も、おまえのうちで、もはや決して輝くことはない。

廃墟・暗闇の世界。千年王国になっても暗闇が漂っている世界になる。

花婿と花嫁の声も、おまえのうちで、もはや決して聞かれることはない。

子孫はここからはもう出ない。

バビロンは千年間、悪霊たちが閉じ込められる留置場になります。
そこは人間が近付きたくない恐るべき場所。千年王国の中の例外的な呪われた場所。
エドムとバビロンはそういう場所なんです。なぜそうなるのか？

というのは、おまえの商人たちが地上で権力を握り、おまえの魔術によってすべての国々の民が惑わされ、

24 この都の中に、預言者たちや聖徒たちの血、また地上で屠られたすべての人々の血が見出されたからである。

「わたしの聖徒たちに対してしたことを、わたしは赦さんぞ」という神の峻厳な裁きが、ここで明らかにされるのです。

さて、この大きなバビロンに住んでいた人たちは、バビロン崩壊と共に全滅しました。
では、反キリスト帝国の首都大バビロンの王である反キリストは、この時無事だったんでしょうか？
無事なんです。なぜなら、留守だったんです。バビロンが壊滅的ダメージを受けた時、反キリストは大バビロンにいなかった。それが分かるのが**黙示録 16 章**。

12 第六の御使いが鉢の中身を大河ユーフラテスに注いだ。

すると、その水は涸れてしまい、日の昇る方から来る王たちの道を備えることになった。

13 また、私は竜（サタン）の口と獣（反キリスト）の口、また偽預言者（反キリストの補佐をする助手）の口から、蛙のような三つの汚（けが）れた霊が出て来るのを見た。

14 これらは、しるしを行う悪霊どもの霊であり、全世界の王たちのところに出て行く。

全能者なる神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを召集するためである。

竜（サタン）・獣（反キリスト）・偽預言者（反キリストの補佐をする助手）、これが悪の三位一体。
この三位一体の口から出る霊によって、全世界の王たちが戦争に備えてユーフラテス川を渡ってやって来る。これは、まさにフェイクニュースです。フェイクニュースって全員が騙されませんよ。

今でもウクライナ戦争について、ずいぶんフェイクニュースが踊っていて、もう『ごうちゃんねる』のコメント、悲惨。「おまえの目は節穴か！」「ゼレンスキーはナチなんだよ！」って。

そんなら、会（お）うたことあるんか？おまえは！もう かないませんわ。

そのことについては今晚アップするんで見てください。もう腹が立って仕方がない。

「ようそんなこと書くな」というのが出て来るんですが、そんなのはネット住民の一部だけで。

だけど、全世界のほとんどの人々が信じ込んでしまうようなフェイクニュースが流れるんですね。
悪霊の力によって信じ込ませられてしまう。

16 こうして汚れた霊どもは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる場所に王たちを集めた。

地上再臨のキリストと決闘するために、反キリストはバビロンを留守にして、自らハルマゲドンに行きます。そして、エルサレムまでなだれ込んで行くんです。

17 第七の御使いが鉢の中身を空中に注いだ。

すると大きな声が神殿の中から、御座から出て、「事は成就した」と言った。

**19 あの大きな都は三つの部分に裂かれ、諸国の民の町々は倒れた。
神は大バビロンを忘れず、ご自分の激しい憤りのぶどう酒の杯を与えられた。**

19 節に書いてあることが 18 章の後半のことです。18 章後半にはバビロンが崩壊したことが書いてありますが、この時、大バビロンの主（ぬし）である反キリストはそこを留守にして、エルサレム目がけて進軍中なんですね。

なので、大バビロンそのものは一日にして壊滅したけど、この段階で反キリストはまだ生きている。7 人の王たちも生きています。壊滅の前に召集が掛かっているんで、彼らは大バビロンにいなかったんです。そして、イスラエルの北方にあるハルマゲドンに集合してエルサレムに向かって進んで行き、最後はエルサレムで、地上再臨のキリストによって反キリストの軍隊が滅ぼされます。それが 19 章です。

今私たちが見ているのは 18 章。黙示録は全体で 22 章あって 18 章まで全部終わった。ということは、残り 19・20・21・22、あと 4 つ。いや～、今までやって来た。♪は～るばる来たぜ 19 章♪ 19 章はいよいよ地上再臨が出て来るのですが、それは次回。

黙示録、今まで気が重くなるような内容ばかり続きました。なにしろ艱難時代は裁きなので、見て行くとやはり気持ちが萎えるようなことが多かったのですが、でも艱難時代のゴールは最高です。悪いことに向かっているように見えて、実は一番良いことに突き進んでいる。これが、聖書が語っている歴史観なんですね。

今週の日曜日、ここでイースターの集いをやりました。この集会のメンバーでキリストを信じて天国に帰った人たちを思い起こし、スライドにして、あんなこともあった、こんなこともあったと語り合ったんです。それを見ながら、ずっと 1 つの言葉が浮かんでたんですね。

クリスチャンでも歳取りますし、腰曲がるし、認知症になる人は認知症になるし、クリスチャンでも病気になる時は病気になるし、外耳炎になる人は外耳炎になるんですよ。めちゃくちゃ痛かった。だけど、望みがあるんですね。

ちょっと前に、針中野のマツヤデンキに自分の YouTube 用に SD カードを買いに行ったんです。買って買って失くなるんですよ。私が失くすからなんですけど。その時、少しご年配の方が電球交換で来られてたんです。今そんな電球売ってない。売ってるかもしれないけど、店員は LED 勧めてはるんです。「電球とおんなじ色しますから、これいいですよ。電球よりも寿命が 40 倍あります」言うて。そしたら、そのおじいさんがね、「コレ切れる前に、ワシ切れるわ」言わはって。

自分が購入した物よりも自分が先に姿消すって、このシュールな現実を笑いで言う大阪の人ってね、わが町 東住吉。普通の商店街、駒川商店街歩いてるだけで、あっちこっちでナマの漫才聞けるからね、大阪って。東住吉、下町、大阪人！ ねっ！
でもなんか、何とも言えない気持ちになりながら帰って来たんですけど。

キリストにあって亡くなった方々のことを考えた時、全ては変わって行きます。

クリスチャンでも腰曲がって来ます。姿は野暮ったくなるかもしれない。
でもね、失われることはないんです。

初め元気な青虫が、最終的にはサナギになるじゃないですか。サナギって、どこことなく棺桶に似て
ません？ サナギの形も色も。ところが、棺桶で、サナギで最後じゃない。
メリメリっビリビリっとサナギの殻を突き破って、蝶々なら空を飛んで行く。

クリスチャンにとって死は、本当に輝かしい世界に羽ばたくための通過点に過ぎない。
キリストほど完全なシェルターはないんです。キリストの内に隠れる者はみな、艱難時代の次に現
れる千年王国と、その次の新しい天・新しい地に行くことができます。

天よ、喜べとありましたが、天を喜ぶためには天に国籍を持たなければなりません。
天に国籍を持たせるために、キリストは私たちのために身代りとなって死んでくださった。
そして、よみがえってくださった。そして、天に帰ってくださった。
そして、今にも私たちを迎えようと準備しておられるんですね。

黙示録の預言を学んでおられる方で、まだキリストを信じていない方がおられたら、ぜひキリスト
を信じてください。その準備をさせるために、神様が黙示録を作ってくださいましたね。
幸いな決心をしてくださることをお勧めして終わります。

^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^ ^^

* 使用した聖書は『聖書 新改訳 2017』

* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」

* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約 15 分) もぜひどうぞ。YouTube もあります。

* YouTube 「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。